

北島 つまり、主権・連合自体についての投票ではなく……。

セイウエル そうです。非常に賢いやり方です。主権・連合を認める人より、それについて交渉する信託を与える人があつと多いでしょう。政府に信託を与え、何ができるか様子を見てみよう——

——ということですが。ただ、州民投票に関する州政府の提案——これは当初の立ち場からすると後退しているのです。では、「われわれに信託をくれ。そうすれば、もう一度投票を行ない、われわれの成果について皆さんに承認を求めたい」となっているのです。つまり信託を与えるだけでコトは終わらず、再度住民投票が行なわれるということですね。

北島 同じ問題についての住民投票は法律で四年間に一回しかできないことになつてゐるそうですね。

セイウエル そうなんです。

レベック首相がもし主権・連合について交渉する信託を得て何も達成しなかつた場合、同じ主権・連合についての州民投票は四年間行なえません。しかしもし交渉によって何かを得た場合は、もう一度投票を実施し、人々の承認を求めなければなりません。

北島 州民投票はどういう結果になるとお考えですか。

セイウエル いろいろな世論調査によりますと、州政府は主権・連合について交渉する信託を得るでしょう。ケベック党は、きわめて巧妙なキャンペーンを張つ

てきました。政治のお手本といつてもいいでしょう。党は有権者が独立を欲していないことを知っています。ですから独立を口にしません。「分離」という言葉が不評だということも知っています。だから「分離する」とか「分離主義」という言葉は使いません。

昨年夏、ケベックに登場した看板には、「主権・連合——それは同等の立ち場で生きることだ」と書かれていました。主権・連合は独立ではありません。それは平等ということなのです。世論調査でもフランス系カナダ人の八〇パーセントが「同等の立ち場」に賛意を示しています。今度の白書も、「ケベック・カナダの新しい関係——同等のパートナーシップ」と題されています。このように、非常に注意深く構成され、きわめて巧妙に計画されていますよ。うまくいくんじゃないですかね。

州民投票の見通し

北島 州民投票に反対する組織はどのぐらい力があるのでしょうか。

セイウエル (レベック政権が誕生してから) 最初の二年間は、きちんと組織されてなかつたですね。指導者もなかつたし……。カナダ統一のグループがいくつかできましたが、クロード・ライアンがケベック州自由党党首になつてから、だんだん彼が指導者の存在になりました。今では、すべての反対勢力が州自由党の傘下にあるはずですよ。もしトルドー氏(前連邦首相、連邦自由党総裁)が運動した

くても、この組織の中でやらなければならぬでしょう。州民投票に関する法律で、賛成派と反対派の組織はそれぞれひとつづつしか認められず、ケベック外からの干渉やケベック外からの資金は認められていないからです。周到に管理された投票ですよ、これは。

北島 ライアン氏の腕前はどうか。

セイウエル 非常にうまい指導者になつてきたですね。ただ彼もきわめて熱心なナシヨナリストで、これまでずっとケベックの権限増大を説いてきた人です。ライアン氏の指揮する州自由党は、今年一月、憲法改正の提案を行ないましたが、その中で税制、立法、対外関係などに関する州権の大幅拡大と中央政府の大大小小的権限削減を要求しています。

問題は、ライアン氏を中心とする反対勢力が果たして勝ちを収めるか、ということですね。レベック政権が生まれたのは、彼らが主権・連合を呼びかけたからではありません。一九七六年の選挙運動では、ケベック党は主権・連合を口にしませんでした。「あとで州民投票を行なうから、これについては今は気にするな。今は、ただ、現在政権を担当している人たちより、われわれの方が良い政治ができるのではないかということだけを考えたい」というのが当時の彼らの主張でした。その通りだ、と多くの人が考えました。私だって、そのときケベックにいたら、「レベックと良い政治」に賛成票を投じたでしょう。ところが、レベック政権の人気は、現在はそれほど

もありません。いろいろなこともやってきましたが、いいこともときには一部の人に反感を起こさせるものです。そういうわけで、ケベック党の人気は、今では、自由党をかなり下回っています。事実、レベック氏が今秋行なわれると見られる選挙で勝つには、まず州民投票で勝利を収めるしかない、とほとんどの人は考えています。州民投票に勝てば、レベック氏は「皆さんはわれわれに信託を与えてくれた。今度は、われわれがその信託を実施できるように、再選してください」と言えるわけですよ。州選挙を今すぐ行なつた場合、世論調査を見ますと、ライアン氏と彼の自由党がずっとリードしていますから、レベック氏のケベック党にまず勝ち目はないでしょうね。

北島 もし州民投票の結果、レベック氏が交渉権を得た場合は、どういうことになりますか。

セイウエル これまでのすべての発言からしますと、州の首相、あるいは連邦政府の指導者の中で、例え仮定の問題としても、いかなる形の主権であろうと交渉に応じてほしいというのは一人もいません。話し合いを続行し、主権を認めるということではなく、ケベックを含むすべての州がそれぞれの欲する権限——おそらくケベックについては他州よりいくらか多く——を増大し、政治的、経済的統一は保つ、という解決法を見つけるよう努力しようというのが彼らの意向です。そういう努力を三、四年続けていくうちに、それぞれの州は経済的、文化的、社